



5月24日～25日の2日間にわたって、山形県大江町で「第10回全国山菜文化産業祭 山菜サミットin大江」が開催されました。会場となった大江町は、山形県のほぼ中央部、山形盆地の西部に位置する人口およそ9000人の町で、畑や林床栽培、ビニールハウスなどでの促成栽培など、さまざまな手法で山菜栽培に取り組んでいます。

山菜サミットin大江

山菜サミットは、全国各地で山菜振興に取り組んでいる関係者が情報交換・技術交流を行い、山菜文化産業の展望を語る場を設けるとともに、一般の方々にも山菜に関する理解を深めて頂くことを目的として毎年開催されています。

山菜サミットin大江では古村美栄子山形県知事、今井敏林野庁長官が出席され、山菜生産者、流通業者等による大江町の山菜の魅力テーマとしたシンポジウムや久保木武行オーナーシェフ（東京・華福寿）の記念講演、講話のほか、地元の山菜料理を囲みでの山菜文化交流会などが行われ、全国に向けて山菜の魅力を発信しました。

「山菜等利活用推進コンソーシアム」の設立

大江町では、山菜サミットin大江の開催に向けて、「全国山菜サミット実

行委員会」を設立するとともに、小委員会を設立し、行政（大江町、山形県）と大江町内の関係団体が一体となって大会の準備・運営と開催後の事業展開の検討を進めてきました。

この小委員会の取組は、山形県が豊富な森林資源を生かした中山間地域の活性化のために推進している「やまがた森林ノミクス」の取組となることから、小委員会を大江町の属する村山地域の森林ノミクスモデル「山菜等利活用推進コンソーシアム」と位置づけて、平成26年11月に設立しました。

この小委員会では、山菜等の生産体制強化や山菜・きのこ地域加工商品の開発、山菜・きのこ栽培とグリーンツーリズムなど体験型観光や地域食産業と連携した地域産業の創出などの地域の特色やニーズに応じた課題の検討を進めています。

山菜による地域の活性化を

山形県では、大江町を含む7市7町



大江町の山菜料理（山菜文化交流会等）

で構成される村山地域の地域特性を活かした新しい産地づくりプロジェクトとして、安定した山菜・きのこの生産量の確保や通年販売を目指した山菜・きのこの加工品開発に取り組んでいます。

また、大江町内の小学校では、毎月19日の「食育の日」を目安に地元の山菜などを取り入れた「ふるさと給食」を実施しています。

大江町では、新たな地域産業の創出や山菜の魅力を発信する様々な具体的取組を行って、地域の活性化を進めています。



山菜の展示販売（ようちゃん「わらび」）

特産品として期待される「あおそ」

おおえまち